

「キリストの福音にふさわしく」

ピリピ1：27-30

堀田修一 21・10・10

I キリストの福音にふさわしく生活するために必要な事→キリストの福音を知り続け、キリストの恵みを味わい続ける事。

1. キリストの福音とは：神が私達を大きな愛で愛し、大切なひとり子、御子イエス・キリストを救い主として、この世に遣わされた（クリスマス）・御子キリストが私達を愛して私達の罪の為に十字架で死に、私達の過去・現在・未来の罪を完全に償い、三日目によみがえられた・その御子キリストを信じる者は、滅びることなく、永遠の命＝主を信じた時からいただく命、神を深く知り続け、永遠に素晴らしい神に愛され神と深く交わる事ができる命をいただけるという良き知らせ。ヨハネ17：3
2. 主を信じ洗礼を受けるのはゴールではなくスタートである。それから日々、ますます、御言葉を味わい、主と共に歩みつつ、神の愛の大きさ、キリストの恵みの深さ、御聖霊との交わり、主の聖さ、愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるか知り続けるように祈り、感謝する。

II 「ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい」：27。

生きておられるキリスト、福音（主への信仰による義＝キリストの罪のない白い衣を着る。黙示録3：5）は、私達の生活を変えて下さる。

1. 主に遣わされた家庭、職場、学校、色々な所で、キリストを信じ救われた者、罪赦された者、神に愛されている者として生活する。皆、人間関係は難しいが、自分には愛がないと認め主の愛を求めよう！
2. 生けるキリストが教会、私達の家庭、職場、学校に共にいて下さる事を認め自覚し、キリストにふさわしくキリストが喜ばれる事を祈り求めながら歩む。「主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい」（エペソ5：10）。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。…見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」（マタイ28：18-20）。
3. 主は、御自身を信じる私達の心の中に、そして、そばにおられる。この主に、御心を伺いながら歩む。「神のうちにとどまっていると言う人は、自分もイエスが歩まれたように歩まなければなりません」（Iヨハネ2：6）。

4. キリストの福音にふさわしく生活することで、素晴らしい主を証しする。主の福音を伝える時、反対もある事を覚悟する。悪魔も働き、伝えられた人も、自分の罪を認めたくない葛藤も起きる。

5. 主にあって一致して歩む。キリストの福音が目指しているもの→「父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです」(ヨハネ17:21)。「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい」(エペソ4:3)。あの人につく、この人につくという人間的な一致ではなく、御霊によって主を中心とした一致。

6. 律法主義ではなく、福音の恵み=主イエスの恵み、数えきれない罪の赦し、地上と天国で味わう永遠の命、放蕩息子、娘の私達が、神に立ち返る時、抱きしめて下さる父なる神の大きな愛、ご聖霊との親しい交わり、慰め励まし、聖霊が主の品性に変えて下さる恵みに生きる。

Ⅲ「そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない、と」: 27, 28。

私達は、戦うべき真の敵を見誤ってはならない。真の敵である悪魔は、自分を隠し、目に見える人々と争わせようとする。誤解や影口や悪口を通して。だから目を覚まして霊的な武具(御言葉・信仰・祈り。エペソ6:10-20)を身に着け祈りたい。主の愛で互いに赦し合い、愛し合い、霊を一つにし、しっかりと立ち、心を一つにし、福音の為に共に奮闘することができるように。「また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされる(おどかさる、恐れる、おびえる)こと」がないように。主に従う時、いつでも反対者はいる事を自覚したい。いつの時代も。どこでも。「もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します」(ヨハネ15:21)。しかし失望してはならない。「あなたがたは世にあっては患難があります(「労苦はその日その日に、十分あります」マタイ6:34)。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」(16:33)。勝利者である主が、患難の中にいる私達と共にられる! 力強い!

Ⅳ「そのこと(反対や迫害)は、彼ら(反対者、迫害者)にとっては滅び(神のさばきを受ける)のしるし、あなたがたにとっては救いのしるし(迫害されることは、真に救われているしるし、主の本物の弟子とされているしるし)です」: 28。

「それは神によることです」: 28。ピリピ人の救いや反対者達のすべての状況は、神から出た事。神は、昔も今もすべてを支配し、すべてのことを働かせて益(私達の主の姿への成長、御業の前進)とされる。「あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけではなく、キリストのために苦しむことでもあるのです」: 29。主を信じる信仰も神が私達に下さった賜物。感謝! 私達は自分の力で信じたのではない。また神は、私達に主の為の苦しみも下さった。苦しみの目的は→

① 主の苦しみにあずかる、主の足跡に従う。「善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、それは神の前に喜ばれることです。このためにこそ、あなたがたは召されました(救われました)。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。キリストは罪を犯したことがなく…ののしられても、ののしり返さず…キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義(義である主ご自身)のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された(赦された)」I ペテロ2：20—24)。主の弟子の本物のしるし、主の苦しみと主ご自身を深く知る。

② もはや自分に頼らず、神に拠り頼む者とする為(IIコリント1：9)。

③ 神が私達を愛される故の訓練→ご自身の聖さにあずからせる、主の姿に成長させる(ヘブル12章)。

④ 苦しみの中にいる人々を深く思いやる者とする(ヘブ13：3)。※証し。心で共に泣き祈り支える者へ。反対、迫害、苦しみを受けているのは、あなただけではない。まず主が、私達の為に苦しみを受けられた。使徒たちも、パウロも(主の為の苦しみ、殉教)、「かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです」：30。この2021年間、主に忠実な人々は、主の為の苦しみ、迫害を受けて来た。今も世界中で。表に出していない所でも。苦しみは、無意味なもの、神から見放されているものではない。神は私達を愛し、主を信じる信仰を与え救い、苦しみを支配し与え、すべての事を働かせて益(苦しみを受けているのは、自分だけではないという励まし、悔い改め、救い、主の姿への成長、苦しんで下さった主の苦しみ、深い愛を知る、主ご自身を深く知る、苦しみの中にある人々を思いやる、※証し：迫害の中、主に忠実なキリスト者の姿を見て神を信じる人が起こされる)としてくださる。